

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)親電元工業 朝霞事業所プロジェクト	階数	地上4F
建設地	埼玉県朝霞市幸町三丁目1110番1号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年2月6日
敷地面積	29,594 m ²	作成者	小川泰男
建築面積	7,761 m ²	確認日	2020年2月6日
延床面積	27,435 m ²	確認者	小川泰男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.4</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 3.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.4</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>高い外皮性能、効率のよい設備機器を使用しており、エネルギー消費、環境負荷低減になるよう設計されている。</p>		<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>ほぼ全面的にF★★★★を使用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>天井が高く、利用者にとって高く感じる空間になっている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>植栽への配慮を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明器具を使用し消費電力の低減に努めている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>グラスウール断熱材を使用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>光害対策ガイドラインの過半を満たす取り組みを行っており、広告物照明の扱いの過半を満たしている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
【(仮称)親電元工業 朝霞事業所プロジェクト】

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境					0.40	-	-		3.4
1 音環境				3.6	0.15	-	-		3.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		T-2以上を使用		5.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音		天井と床で吸音材を使用		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.2	0.35	-	-		3.2
2.1 室温制御				3.4	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		高い外皮性能を持つ		4.6	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-		3.3
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-		
1 昼光率				3.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度				2.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		作業単位で照明制御ができる。		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.6	0.25	-	-		3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を使用。		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が25.00㎡以上		4.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.1
1 機能性				3.3	0.40	-	-		3.3
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室 天井高 2.7m以上、窓が設置されている。		4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-		
3 内装計画		間接照明を内装と一体で各所に配置している。		5.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		実験室エリアにおいて壁の出隅にコーナーガードを設置している。		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃用のスペースの設置をしている。		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給湯・給水でC以上を使用		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		システムを細かく区分している。		4.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	4階階高4.2m (階高3.9m以上)	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	設備バルコニーと屋上機器予備スペースにより確保している。	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑地作りを計画している。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.78	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.69	4.1	0.50	-	-	4.1
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+仕上OAフロアを採用している。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール断熱材を使用	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率 76%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪スペースを設置している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たす取り組みを行っている。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)親電元工業 朝霞事業所プロジェクト	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	-----------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.9	+	3.0	=	6.9	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.9
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.9
<配慮した内容を記述> 光害対策ガイドラインの過半を満たす取り組みを行っており、広告物照明の扱いの過半を満たしている。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 植栽への配慮を行っている。			

: 入力欄